

東日本大震災の教訓を踏まえた 津波対策の見直しについて

東日本大震災の教訓

○想定を超える自然現象の発生



海岸線を越える津波（岩沼市）
【共同通信社】



河川を遡上する津波（八戸市）
【東奥日報社】

大阪府の津波対策の見直し

釜石港の状況

防波堤の破損



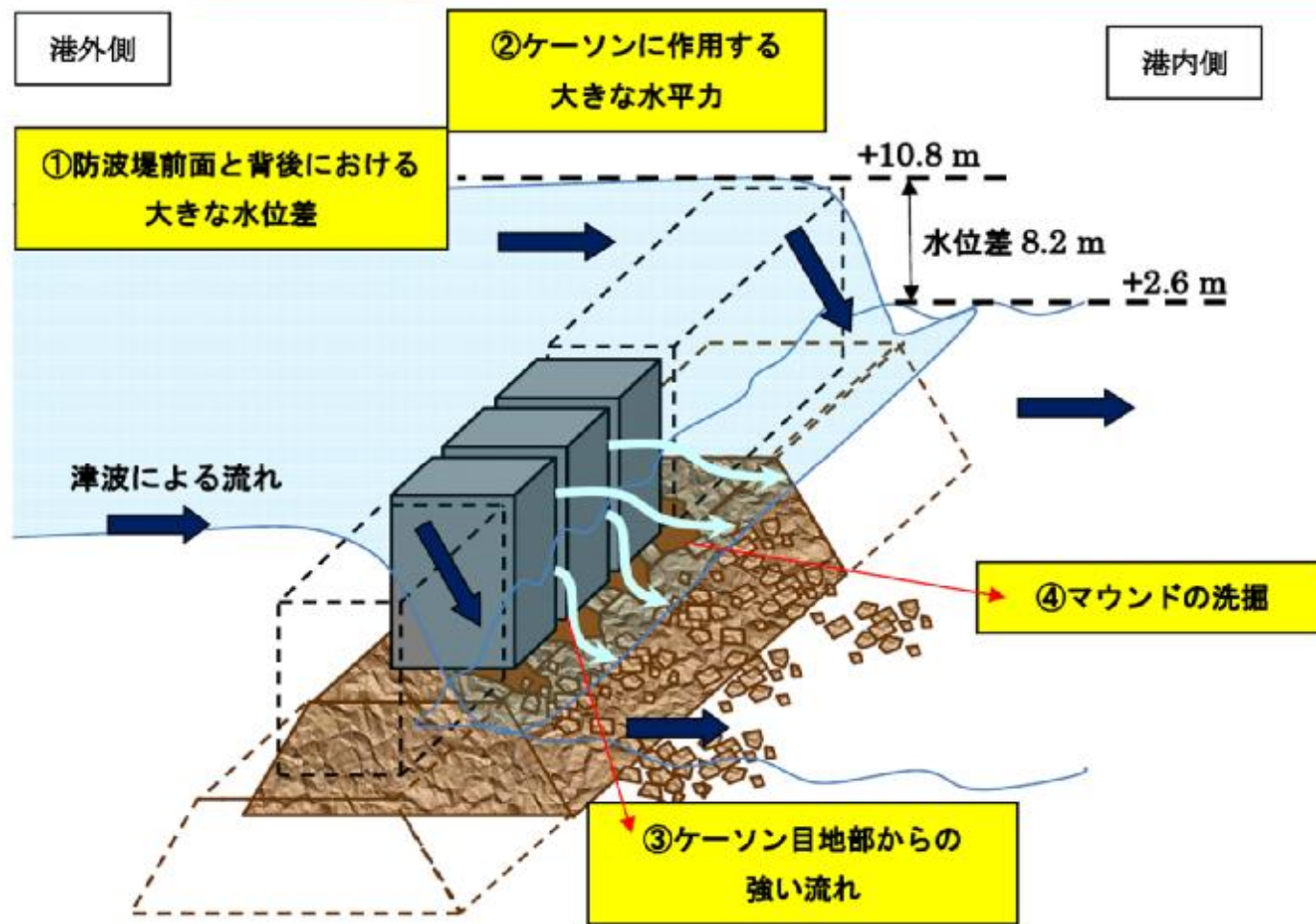
船舶の衝突



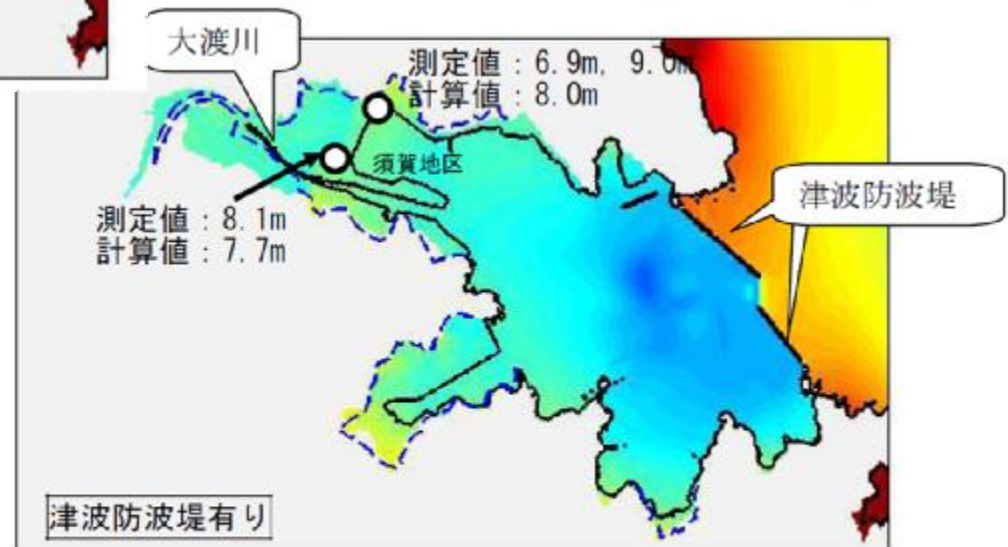
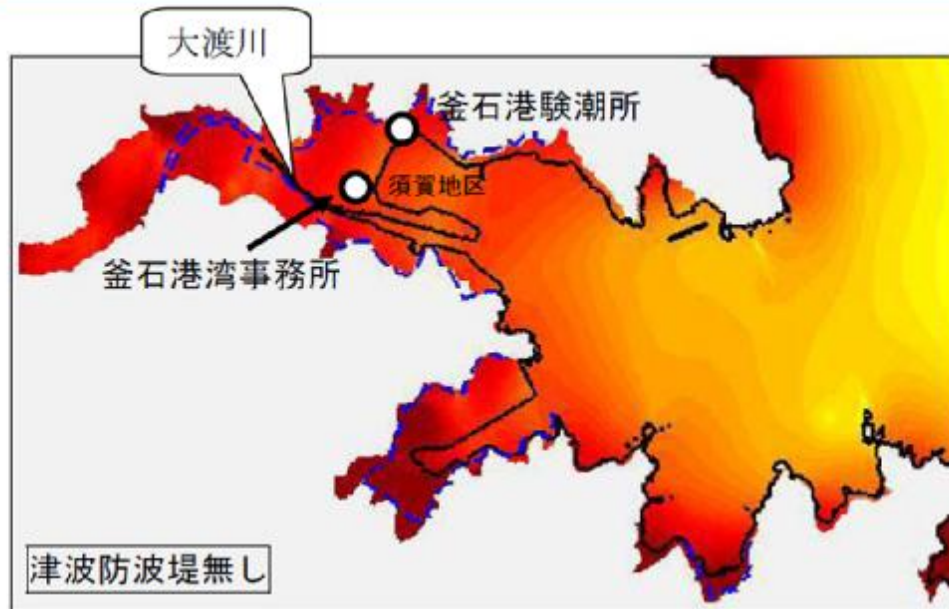
港周辺の浸水



東北地方太平洋沖地震津波による 釜石港津波防波堤の被災要因

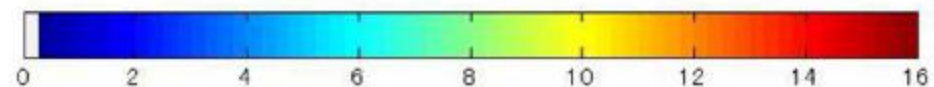


釜石港における津波被害の数値計算による再現結果(1)

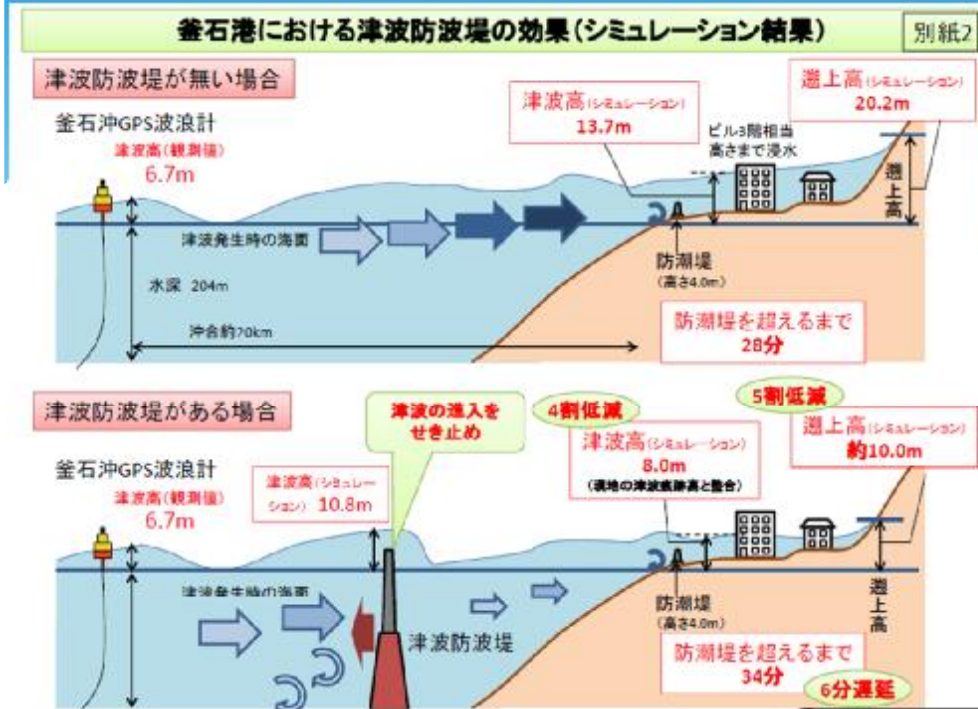


図一 最大遡上高・津波高の計算結果
(青点線は釜石港湾事務所が踏査した浸水域)

(独)港湾空港技術研究所 2011.3.31

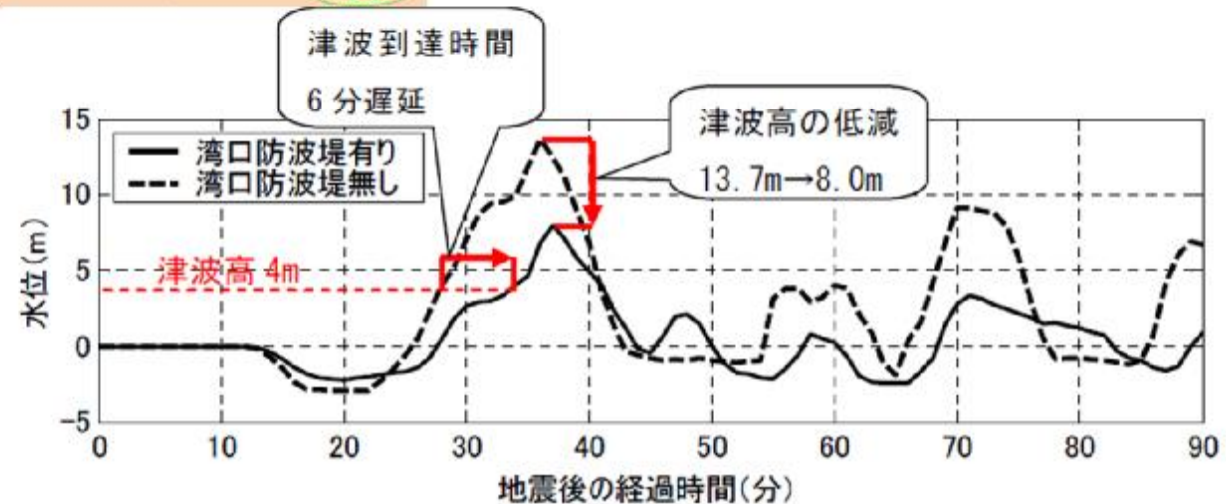


釜石港における津波被害の数値計算による再現結果(2)



図一 釜石港須賀地区における津波高の計算結果図

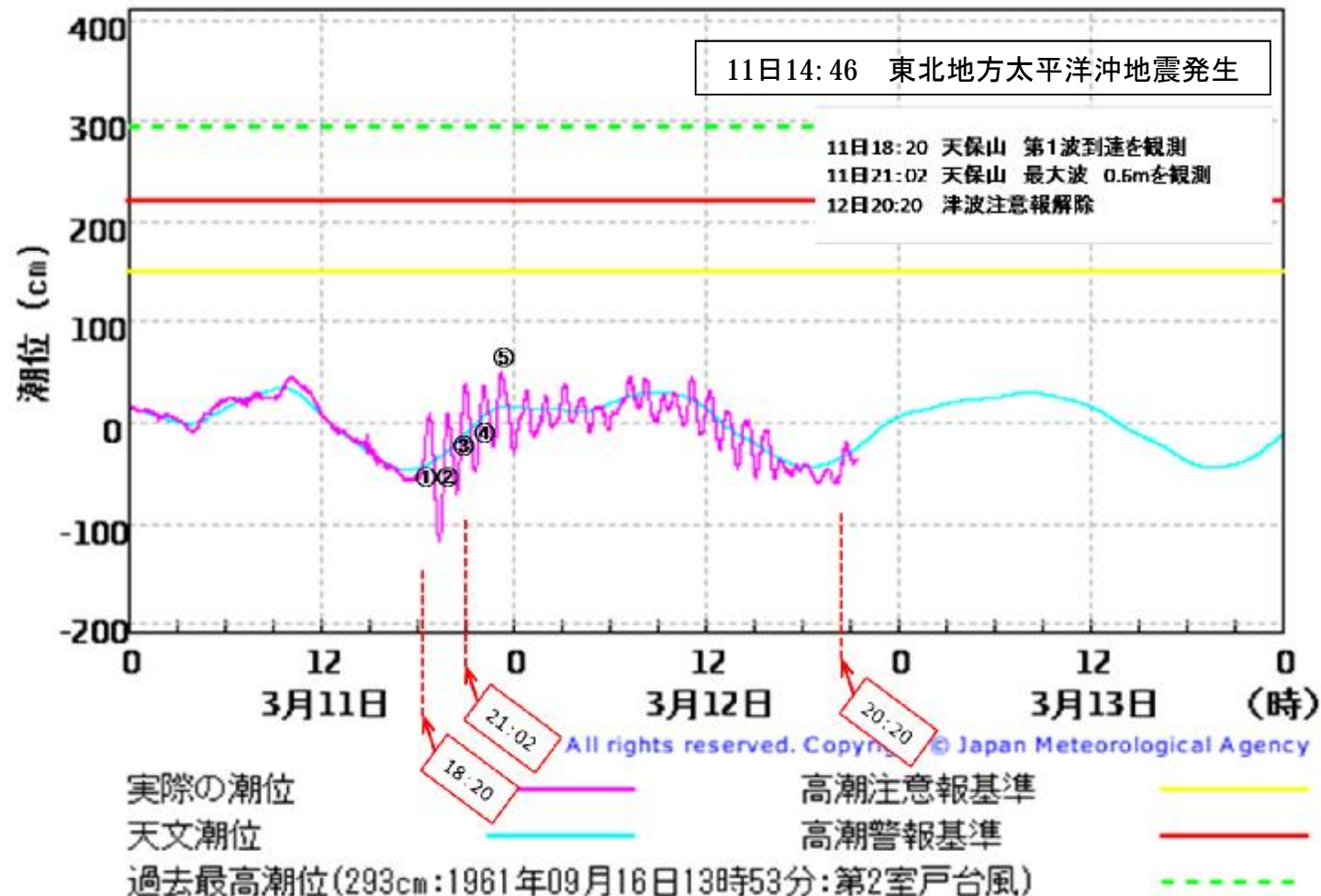
(独)港湾空港技術研究所 2011.3.31



平成23年3月11日の天保山潮位データ

気象庁潮位観測情報 大阪(天保山)

平成23年3月12日 午後21時30分現在



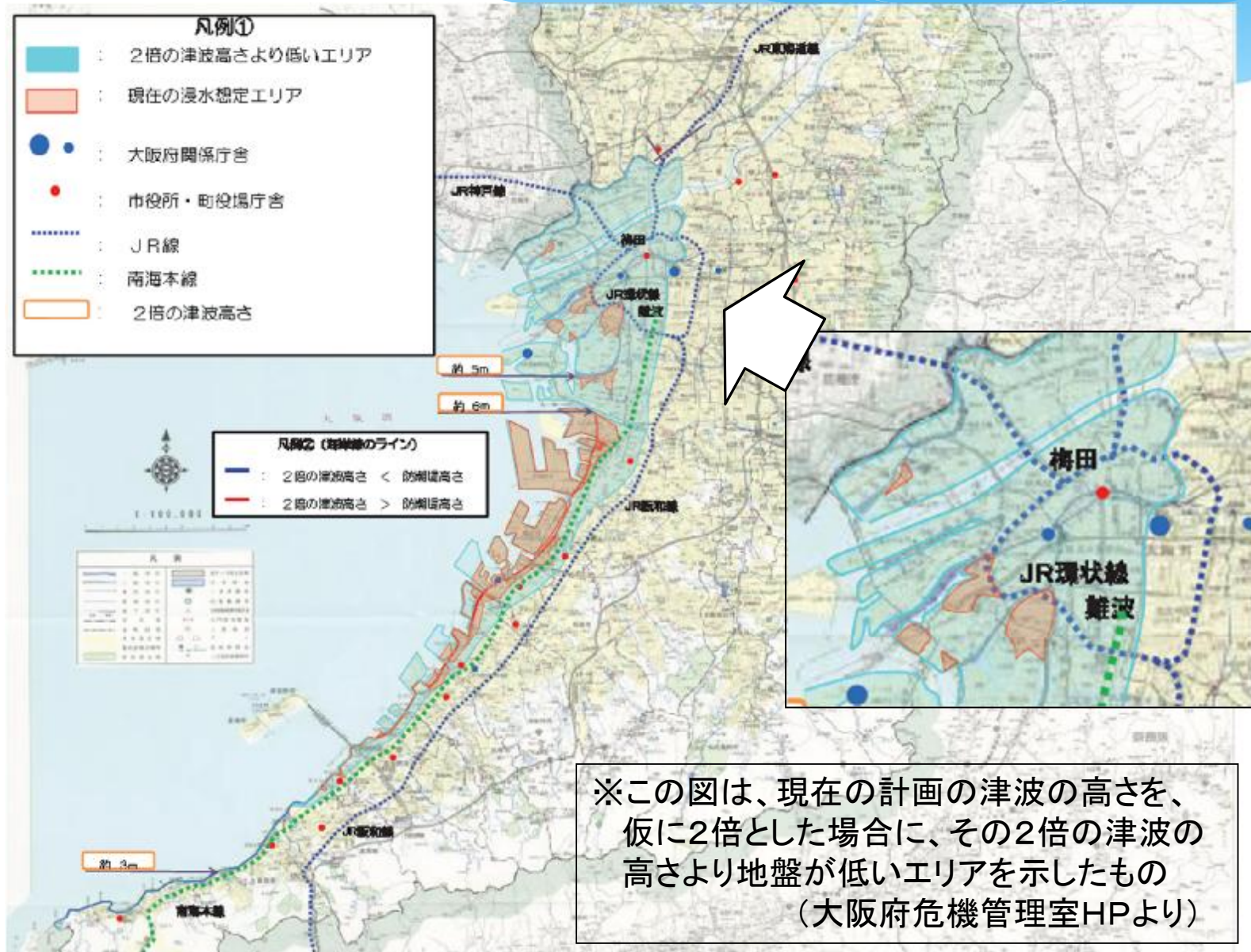
中央防災会議

「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査委員会」
(中間とりまとめ H23.6.26、報告 H23.9.28)

◎ 2つのレベルに分けた対策

津波のレベル	最大級の津波 (物理的に想定しうる最大規模)	高い頻度で起きる津波 (50年から150年間隔の規模)
基本的な考え方	○住民避難を柱とした総合的な 防災対策を講じる	○防波堤などで内陸への浸水を防ぐ
具体的な対策	○避難を支援する警報の発表 ○避難路や避難場所の整備 ○原発や病院、防災拠点の対策は 万全を期す	○海岸保全施設の整備は、引き続き 推進 ○想定を超える津波でも壊れにくい 構造物を開発

2倍の津波高による影響範囲



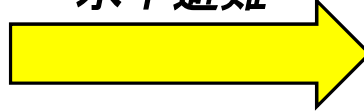
避難方法

(適切な安全確保行動と避難先の選択)

○現在の避難行動と避難先



水平避難



指定避難所
(小学校、公民館 など)

今後は、垂直避難も必要！！

津波：いち早く、高い場所へ

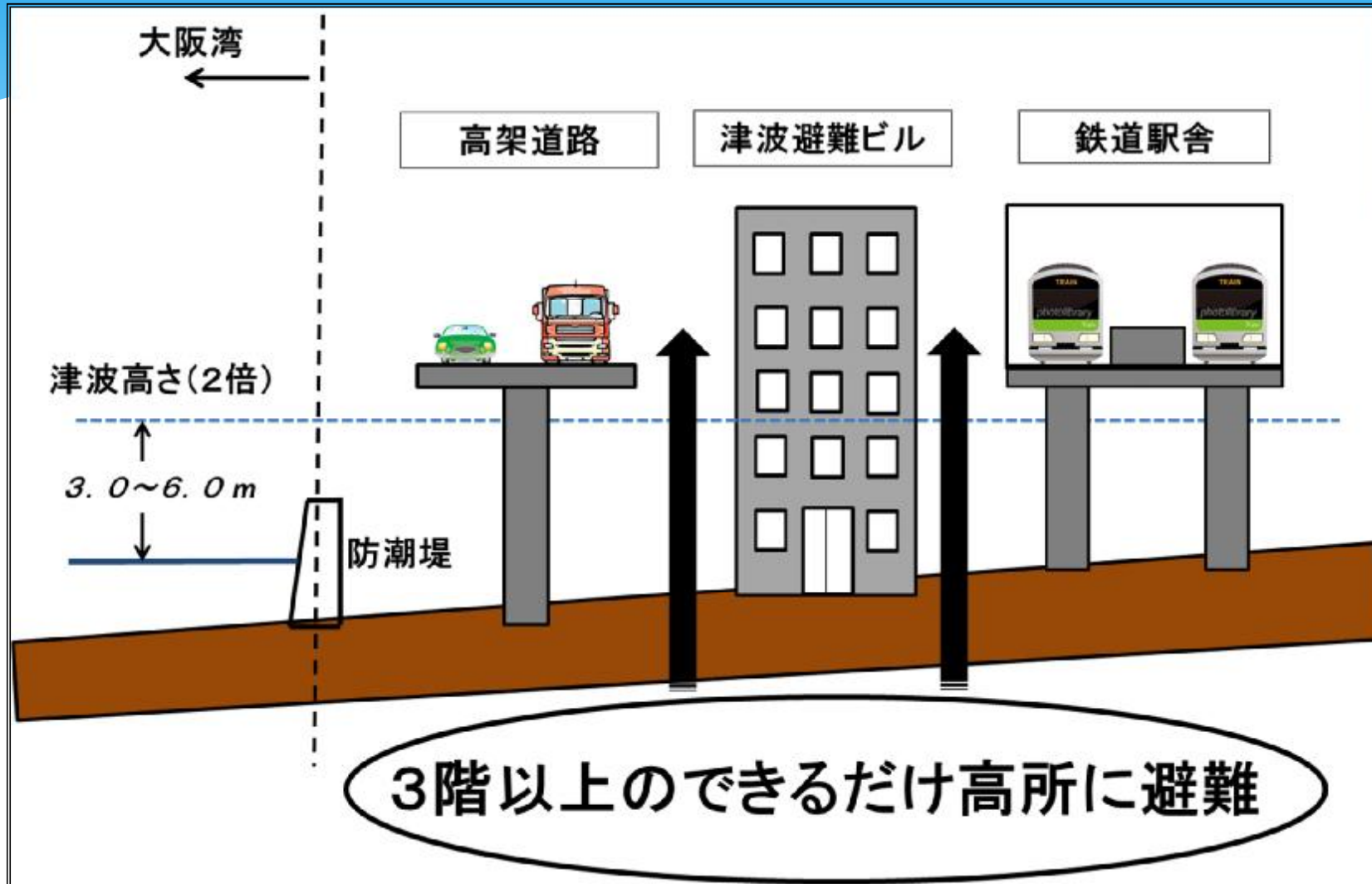
垂直避難



近隣の高い建物
(高架道路、高架駅舎の活用も)

※地震が発生して津波の恐れがあるときは、
高いところ(目安としてはビルの3階以上)
に逃げていただく。

津波避難場所の確保（1）



津波避難場所の確保（２）

大阪市では、上町台地西側10区を対象に津波避難ビルの確保を進めています。



（大阪市危機管理室HPより）

大阪市の地形は比較的平坦であるため、津波から身を守るためには少しでも早く「高い」場所(建物の3階相当以上)に避難する必要があります。市内には多くの堅固なビルが立地していますので、これらのビルを津波時に避難できる施設として確保していきます。

○市立学校・市営住宅等を津波避難ビルに指定

市立学校や市営住宅等の公共施設を、「津波避難ビル」として指定しました。

○民間企業所有ビルの協力について

現在、民間企業等のご協力を得て、約1万棟を対象に津波避難ビルとして協定を結んでいただくよう働きかけています。

2倍の最大津波高分布

<潮位条件: H.W.L=O.P+2.1m> (単位: m)

